

地震の際の 避難の流れ

1 地震が起きたら

- 落ち着いて自分の身体を守る！
家具や天井の下敷きにならないように、机の下や丈夫なもので身体を保護しましょう。
- 火に近づくな！
都市ガスは震度 5 相当以上で自動的に遮断されます。
無理に火を消そうとせず、揺れがおさまるまで近づかないようにしましょう。

2 揺れがおさまったら

- テレビ・ラジオをつける、携帯電話を確認する
被害情報を出来るだけ早く確認しましょう。
- くつ・スリッパをはく
割れたガラス等から足を守るために、くつ・スリッパをはきましょう。
- 家族の安全を確認する
けが人が出た場合は、自力や近所の助けを得て病院へ向かうことを考えましょう。
- 火元を確認する
ガスの元栓を閉め、ストーブやアイロン等のスイッチを切る。
火事になった場合は、「火事だ！」と大声で叫びながら初期消火を行いましょう。
ただし、火が天井まで延びたら、初期消火が困難ですので、速やかに逃げましょう。

3 自宅に留まるかの判断を

- 津波警報が発表されたら津波避難ビルへ！
- 避難所へ向かうのは自宅に留まることができない時だけ！
原則は自宅避難です。
自宅で寝食ができない場合に限り、災害時避難所（野中小学校）へ向かうことになります。
自宅を離れるときは、目立つ場所に行先や連絡先を書いたメモを残しましょう。
- 外に出るときは気を付けて！
余震に備えて、外に出る場合は安全な服装で身を守りましょう。
また、ブロック塀やがれき、自動販売機等、危険な場所には近づかないようにしましょう。

4 災害が長引く場合

- 水・食糧は備蓄でまかなう
災害から 7 日間は、救援物資が届かず、商店での販売もできないことを想定し、
家庭での備蓄でまかないましょう。
- 正しい情報を手に入れよう
ラジオ・テレビ・行政からの情報を確認し、冷静に判断しましょう。

◆ 海溝型地震の避難

（南海トラフ地震を想定（市内震度 6 弱、津波が約 2 時間で到達、水没します）・・激甚災害）

南海トラフ地震は、市内震度 6 弱となり耐震補強した建物であっても古い建物は倒壊する危険があります。

そのような状況下では、生きるための行動をしてもらうことが重要になります。地震が収まると家族の安否確認、隣近所の安否確認を行った上で、大津波警報等発表後は速やかに以下の行動をとってください。

※ 大阪府の津波による浸水想定は 3 日程度と言われていますが、状況等により異なる場合がありますので注意してください。

- 木造住宅や 3 階建てまでの住宅にお住まいの方
お近くの津波避難ビルの 3 階以上に避難をしてください。

- 3 階建て以上の鉄筋コンクリート等の建物にお住まいの方
1～2 階にお住まいの方は、必ず 3 階以上に避難してください。
津波は何度も襲来するので、津波が一旦引いても大津波警報等が解除されるまで待機してください。

3 階以上にお住まいの方は、自宅が倒壊していないなら原則自宅で待機してください。但し、自宅が家具の倒壊等で住めない場合は廊下等に避難をしてください。

また、被害を受けていない居宅については、警報が解除されるまで自宅内に避難者を避難させてあげてください。

自宅以外に避難した方は、大津波警報等解除後自宅の確認を行い、地震や津波の被害がなく居住出来る状態であれば自宅避難、できない場合は災害時避難所（野中小学校）へ移動していただく必要があります。

◆ 直下型地震の避難

（上町断層地震想定（市内震度 6 強～7）・・激甚災害）

上町台地地震は、市内震度 6 強から 7 となり激甚災害になります。耐震補強した建物であっても古い建物は倒壊する危険があります。

そのような状況下では、生きるための行動をしてもらうことが最も重要になります。地震が収まると家族の安否確認、隣近所の安否確認を行い、火災の消火や救助が必要な場合は協力し、自宅が倒壊して住めない方は最寄りの災害避難所（野中小学校）に避難をしていただく必要があります。